

令和3年度 第70回山形県自作視聴覚教材コンクール

全体講評【学校教育部門】

各地域の価値ある歴史や文化を取り上げたり、作品の紹介の方法として適切な機器を使用したり、語り口調を工夫したり、随所に制作者の熱意や誠意が感じられた。

特に、「大石田かるた」は、読み札の選定・絵札の制作、活用等々に向けた町民あげての取組に感動した。

紙しばい作品は、公民館や放課後子ども教室等でも十分に活用できると思われる。また、デジタルコンテンツの「はぎのくえすと」は、見るだけの教材ではなく、子どもたちの学びや気づきなど、学習した内容が随時追加されていくという点で、新しい学習手段として非常に素晴らしいと感じた。

今後の課題として、絵や映像において「俯瞰的視点」が多く感じられたことが挙げられる。一方的に情報を提供するだけでなく、学習者の興味・関心や疑問などを想定した構成や問いかけ、会話形式などの工夫がほしい。また、紙しばい作品の中には、映像や大画面で表した方が、より効果的に伝わる作品があった。デジタルコンテンツ作品は、ナレーション、音、映像等を付け加えるなど、「見る側を惹きつける工夫」をすれば、さらに感動を与えられる教材になると感じた。

視聴覚教材の役割が認識され、さらに盛んになることを期待している。